

2023年度 静岡福祉大学 教職課程自己点検・評価表

大項目	中項目	2023年度対応状況	自己評価	エビデンス	
①	教育理念・学修目標	1 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況	本学のHP「情報公開」ページの「教育職員免許法施行規則第22条の6に基づく情報公開について」の「(1)教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画」にて具体的かつ明確に設定している。	具体的かつ明確な形で、教員の養成の目標とその達成のための計画が示されており、できている。	01_教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画 02_静岡県教員育成指標 03_静岡県教員等育成指標活用のための補助資料 04_令和6年度静岡福祉大学委員会等名簿
		2 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	本学の教員養成の目標及びその達成するための計画と、静岡県教育委員会が策定した「静岡県教員育成指標」と照合した。	静岡県教育委員会が策定した「静岡県教員育成指標」における「誰一人取り残さない教育」は、発達障がい理解や保護者支援、家庭支援につながる福祉系や心理系の科目を学び、実践力のある教員の養成を目指している本学の目標と合致するものである。一方で、静岡県の育成指標の細目に関しては関連が見られないものもあり、今後見直しをしていく。	01_教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画 02_静岡県教員育成指標 03_静岡県教員等育成指標活用のための補助資料 04_令和6年度静岡福祉大学委員会等名簿
		3 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況	2023年度は組織的な見直しをすることができなかった。	2023年度は、組織的な見直しをすることができなかった。 2024年度は教職課程の内部質保証を行う組織である教職委員会を立ち上げ、定期的に見直しを行う予定である。	01_教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画 02_静岡県教員育成指標 03_静岡県教員等育成指標活用のための補助資料 04_令和6年度静岡福祉大学委員会等名簿
②	授業科目・教育課程の編成実施	1 複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	幼稚園教職課程の課程認定申請書、小学校教職課程の課程認定申請書、教職課程の変更届(2022年度提出)の内容を確認した。また、幼稚園教職課程、小学校教職課程で共通開設する授業科目のシラバスの内容について適切であるかを確認した。	幼稚園教職課程及び小学校教職課程で共通開設する授業科目はそれぞれ課程認定基準に沿っており適切である。また、幼稚園教職課程、小学校教職課程において、授業科目を共通開設することにより、幼小接続について検討できる教育課程の編成となっている。	05_教職課程の変更届(新旧対照表) 06_教職課程認定基準 07_静岡福祉大学シラバス 08_静岡福祉大学カリキュラムツリー(子ども学科)
		2 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	全教室に有線LANのコンセント及びアクセスポイントを設置している。また、情報処理施設を2室設置するとともに、学生に対して一人一台ノートパソコンの所有を義務付けている。その他、学生が使用できる貸出ノートパソコンを、学生用に12台整備している。 教室においては、大・中・小の教室を複数用意し、教職課程の履修人数にあった教室を充てている。 図書、試験対策本は、付属図書館及び保育・教育実習センターに、合計2,594冊を蔵書している。	教職課程の授業科目を実施するにあたって、ICT、教室、図書等の施設・設備については、適切に整備されている。	09_情報センター等の状況 10_学生貸出PC一覧 11_ノートパソコン購入の手引き 12_教職課程に関する図書の蔵書状況
		3 教育課程の体系性	幼稚園教職課程の課程認定申請書、小学校教職課程の課程認定申請書、教職課程の変更届(2022年度提出)の内容から適切な授業科目が配置されていることを確認した。また、本学の教員養成の目標及びそれを達成するための計画と教職課程の授業科目のシラバスを照合し、目標を達成するのに適切な授業科目であることを確認した。教職課程の授業科目とそれ以外の専門科目、基礎科目に配置している授業科目との関連性については、カリキュラム・ツリーから適切性を確認した。	法令及び本学の教員養成の目標とその達成のための計画に対応した必要な授業科目が配置されている。教職課程の授業科目と、それ以外の授業科目との関連性について適切に確保されている。	05_教職課程の変更届(新旧対照表) 06_教職課程認定基準 07_静岡福祉大学シラバス 08_静岡福祉大学カリキュラムツリー(子ども学科)
		4 ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、「保育内容の指導法に関する科目」「各教科の指導法に関する科目」の各授業におけるICTの活用状況について、シラバスへの記載を確認した。また、実習校のICT活用状況や機器、ソフト等の整備状況を把握するとともに、学生への聞き取りを行い、ICT活用力を高めるためにどのような内容を科目ごとに指導していくか、検討する。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、一部の科目において、ICTの活用に関する記載が無いものがあつた。また、科目間の役割を確認し、横断的に指導することはできていない。	13_2023年度_第3者シラバスチェックシート 14_2023年度_教職関連科目シラバス 15_アクティブラーニング・ICT活用確認
		5 いわゆるキャップ制の設定状況	1年間に履修登録が可能な単位数の上限は50単位と定め、単位の厳格化を図っている。また、直前の学年のGPAが3.4以上の学生については、上限を56単位まで認めるなど、柔軟な対応も行っている。	1単位あたりの学修時間を確保する上で、CAP制を有効に機能させている。	16_静岡福祉大学学則 17_静岡福祉大学子ども学部履修規程 18_2023年度_学生便覧
		6 教育課程の充実・見直しの状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、教職課程認定大学等実地視察を受けたことによるカリキュラムの改善について、検討を進めることとした。 小学校教職課程においては、教育実習Ⅰ(学校体験活動)及び教育実習Ⅱの実施時期の見直しを検討した。2024年度より小学校における学校体験活動を2年次9月で実施、教育実習を3年次9月に実施するよう改善を図った。 幼稚園教職課程においては、保育士養成課程のカリキュラムとの調整を含め、カリキュラムの見直しを検討した。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、カリキュラムの改善について検討を進めることができた。 2024年度も引き続き、カリキュラムの改善の検討を進めるとともに、教育実習校からのアンケート等を用いて、実習時期の再検討を含めた、個々の授業科目の充実を図っていく。	19_令和5年度_第6回_小学校教育実習委員会_議事録(抜粋) 20_令和6・7年度教育実習実施要項
		7 個々の授業科目の到達目標の設定状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、シラバス第3者チェックにより、到達目標の設定状況について確認した。また、教職課程コアカリキュラムとの対応についても確認した。 また、履修カルテ等も活用し、学生の学修状況を把握し、改善に努めた。	シラバス第3者チェックにより、到達目標の設定及び達成のための計画、コアカリキュラムへの対応は概ね図られている。	13_2023年度_第3者シラバスチェックシート 14_2023年度_教職関連科目シラバス 21_教職コアカリキュラム対応表
		8 シラバスの作成状況	シラバスと学生による授業アンケート、履修カルテ等の関連を分析し、シラバスの改善に活かす。 また、シラバス第3者チェックにより、適切に作成されているか確認した。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、シラバスは適切に作成されている。	14_2023年度_教職関連科目シラバス 21_教職コアカリキュラム対応表

2023年度 静岡福祉大学 教職課程自己点検・評価表

大項目	中項目	2023年度対応状況	自己評価	エビデンス
② 授業科目・教育課程の編成実施	9 アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、授業科目のシラバス内の、アクティブラーニング及びICT(情報通信機器)に関する記載の有無について確認した。 シラバス内に記載が無い授業科目については、翌年度のシラバスに記載するよう、シラバスチェックの際に対応した。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、アクティブラーニングに関する記載が93.3%、ICT(情報通信機器)に関する記載が57.1%、確認できた。 一部の科目において、ICTに関する記載が見られないものがあつたため、翌年度のシラバスに反映するよう、シラバス第3者チェックにおいて対応した。	13_2023年度_第3者シラバスチェックシート 14_2023年度_教職関連科目シラバス 15_アクティブラーニング・ICT活用確認
	10 個々の授業科目の見直しの状況	学期ごとに学生による授業アンケートを実施し、集計結果は各授業科目担当教員にフィードバックしている。 各授業科目担当教員に対しては、集計結果を踏まえ、次回に向けた改善等のコメント(回答書)の提出を義務付けている。	個々の授業科目については、学生による授業アンケートにより各授業科目担当教員が適宜見直しを図ることができている。 しかし、成績や教員採用試験の状況等の学修成果を踏まえた見直しについては、課題となっている。	22_令和5年度前期 授業アンケート集計結果及び回答書 23_令和5年度後期 授業アンケート集計結果及び回答書
	11 教職実践演習及び教育実習等の実施状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、学生の履修カルテの作成、実習指導、実習巡回記録及び学生との面談等により、実習の実施状況及び成果と課題の確認を行った。 小学校教職課程においては、教育実習Ⅰ(学校体験活動)について、実習報告会にて、実習状況を把握している。教育実習Ⅱについては、教員による実習巡回を行い、実習校での様子を校長・指導教員から聞くとともに、授業観察を行い、学生との面談の中で実習の状況を把握している。さらに、実習後にも面談を実施し、実習の成果と課題について理解を図っている。 幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習について、教員による実習巡回を行い、幼稚園での様子を園長・園指導教員から聞くとともに学生に伝え、学生自身に実習の振り返りをさせ、モチベーションの向上につながる指導をしている。学生との事後面談、事後報告会、学生の自己省察のレポート作成等も実施し、学修成果と課題についての理解を図っている。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、履修カルテは適切に作成されている。 小学校教職課程においては、「教育実習Ⅱ」について、実習校との連携のもと、実習の実施、指導を丁寧に行っている。 幼稚園教職課程においては、「保育・教職実践演習」「幼稚園教育実習」について、実習校との連携のもと、実習の実施、指導を丁寧に行っている。	24_履修カルテ(静岡福祉大学) 25_小学校教育実習巡回記録票(R5) 26_教職実践演習(幼・小)振り返りシート 27_幼稚園教育実習自己評価表(振り返り)
③ 学修成果の把握・可視化	1 成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	学部ごとに「履修規程」を制定し、成績を「秀」「優」「良」「可」「不可」の5段階とし、「秀」～「可」までを合格、「不可」を不合格と規定している。 また、これらの内容は、全学生に配付する「学生便覧」に記載し、適切に公表している。	学部ごとに「履修規程」を定め、成績評価に関する全学的な基準を策定するとともに、適切に公表している。	16_静岡福祉大学学則 17_静岡福祉大学子ども学部履修規程 18_2023年度_学生便覧
	2 成績評価に関する共通理解の構築	クラス分けされている授業科目(2科目)の成績評価基準、オムニバスの授業科目(15科目)の成績とりまとめについてそれぞれのシラバスを確認した。	複数の教員が分担して開講している同一名称の授業科目の成績評価の平準化に配慮し、適切に評価を行っている。 今後はGPC(グレートポイントクラスアベレージ)等、成績評価の状況を見える化し、成績評価に関する基準の意味合いについて議論していく。	07_静岡福祉大学シラバス 13_2023年度_第3者シラバスチェックシート 14_2023年度_教職関連科目シラバス
	3 教員の養成の目標の達成状況(学修成果)を明らかにするための情報の設定及び達成状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、学生に履修カルテを作成させ、学生自身が教員免許状の取得に必要な単位の修得状況を把握できるようにしている。 また、卒業生の教員免許状取得数や教員としての就職状況について、大学HP内で示すことにより、学生が達成状況を把握することができるようにしている。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、学生に履修カルテを作成させ、学生自身が教員免許状の取得に必要な単位の修得状況、達成状況を把握できている。 また履修カルテを活用することで、個々の学生の目標到達状況を、教員が把握することができている。 小学校教職課程においては、履修カルテに記入した内容を、Googleフォームでも入力させることにより、内容をデータで把握することができている。	24_履修カルテ(静岡福祉大学) 28_静岡福祉大学公式HPアドレス
	4 成績評価の状況	すべての授業科目のシラバスについて、到達目標や成績評価基準も含めて適切なものであるか、シラバス第3者チェックにより相互確認した。	各授業科目の到達目標と、その達成水準を測定する手法やその配点基準を明確に示している。今後はGPC(グレートポイントクラスアベレージ)等、成績評価の状況を見える化し、各教員の成績評価について検討する。	07_静岡福祉大学シラバス 13_2023年度_第3者シラバスチェックシート 14_2023年度_教職関連科目シラバス

2023年度 静岡福祉大学 教職課程自己点検・評価表

大項目	中項目	2023年度対応状況	自己評価	エビデンス
④ 教職 員 組 織	1 教員の配置の状況	(1) 小学校一種養成課程 ①教科に関する専門的事項:6人 ②各教科の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等:4人 合計:10人  (2) 幼稚園一種養成課程 ①領域に関する専門的事項:5人 ②保育内容の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等:3人 合計:8人	教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足している。	05_教職課程の変更届(新旧対照表)
	2 教員の業績等	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、2023年度に実施された教職課程認定大学等実地視察に伴い、改めて教員の教育研究業績を確認した。その他、教員の退職等に伴い、新たに教員を採用する場合には、「静岡福祉大学教員選考規程」「静岡福祉大学教員任用基準」「静岡福祉大学教員任用基準等の採用に関する運用内規」に基づき、教員の教育研究業績書を確認している。	教職課程専任教員及び令和3年度以降新たに採用することとなった教員の業績については、十分であった。また、「静岡福祉大学教員選考規程」「静岡福祉大学教員任用基準」「静岡福祉大学教員任用基準等の採用に関する運用内規」も適切に整備されている。	29_静岡福祉大学教員選考規程 30_静岡福祉大学教員任用基準 31_静岡福祉大学教員任用基準等の採用に関する運用内規 32_令和5年度教職専任教員の教育研究業績書
	3 職員の配置状況	「静岡福祉大学事務組織及び事務分掌規程」に基づき、事務部教務課内に教職課程に関する事務分掌を定め、2人(主担当1人、副担当1人)を配置している。	規程に基づき、教職課程に携わる事務職員を適切に配置している。	04_令和6年度静岡福祉大学委員会等名簿 33_静岡福祉大学事務組織及び事務分掌規程 34_令和5年度事務分掌表
	4 FD・SDの実施状況	大学全体のFD・SD研修に参加することで、小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程の授業の質向上を図った。	全学的なFD・SD研修に参加することで、授業の質向上につながっていると分析している。一方で教職課程に特化したFDができなかった。2024年度は、「しず、ふく子ども未来ラボ研究会」を復活させ、子ども学科内の教員の研究内容、研究成果の共有を図るとともに、学生についての情報共有、授業についての改善の方向を探る予定である。	35_2023年度 FDSD研修会一覧表
	5 授業評価アンケートの実施状況	学期ごとに学生による授業アンケートを実施し、集計結果は各授業科目担当教員にフィードバックしている。各授業科目担当教員に対しては、その結果を踏まえ、次回に向けた改善内容等のコメント(回答書)の提出を義務付けている。	学期ごとに学生による授業アンケートを実施し、その結果を改善に生かすための仕組みが構築されている。	22_令和5年度前期 授業アンケート集計結果及び回答書 23_令和5年度後期 授業アンケート集計結果及び回答書
⑤ 情 報 公 表	1 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	本学HP「情報公開」ページに学校教育法施行規則第172条の2、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報を公表している。	法令で定められた情報は、大学HPにてわかりやすく公表している。毎年度、5月1日を基準日として行っていることから適切であり、また、わかりやすい内容にするなどの配慮をしている。	28_静岡福祉大学公式HPアドレス
	2 学修成果に関する情報公表の状況	2023年度卒業生の教員免許状の取得状況及び教員への就職状況から、教職課程の学修成果を確認した。	2023年度は、小学校教諭一種免許状の取得が31件、幼稚園教諭一種免許状の取得が48件と過去最多であった。また、小学校教諭としての就職が14名、幼稚園教諭としての就職が11名であり、教職課程の学修成果が免許状取得及び就職の状況に表れた。なお、結果は大学HPにて公表している。一方で、小学校教職課程及び幼稚園教職課程の両課程において明確な学修成果が定義されていない。今後は、小学校教職課程及び幼稚園教職課程における学修成果を定義し、それらを評価基準として、教職課程で身に付ける資質・能力を明確にする。	36_卒業生の教員免許状の取得の状況 37_卒業生の教員への就職の状況
	3 教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	エビデンス等を示したうえで、わかりやすい自己点検評価表を公表する予定である。2023年度の状況は、2024年12月中に公表する予定とし、それ以降の状況に関する公表時期は、今後、担当者間で協議し決定するものとする。	本評価表は、2024年12月中に公表する予定である。	

2023年度 静岡福祉大学 教職課程自己点検・評価表

大項目	中項目	2023年度対応状況	自己評価	エビデンス
⑥	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）			
	1 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	HP、SNSにおいては、学部・学科紹介の中で取得できる資格・免許として掲載し、大学案内においては、前述の情報に加え、卒業生等のメッセージなどを掲載するなど、教職課程を希望する学生の受入れに工夫を施している。	HP、大学案内、SNS等にて、本学の教職課程に関する情報を公開し、学生の確保に努めている。ただし、過去3年間の入学人数は、入学定員70人に対し、37人（2023年度）、43人（2022年度）、46人（2021年度）と、定員未充足の状態が続いており、適切な学生数は確保できていない。	28_静岡福祉大学公式HPアドレス 38_自己点検評価共通基礎データ様式【大学（専門職大学含む）用】様式2 39_大学案内（静岡福祉大学）
	2 学生に対する履修指導の実施状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、学科内での指導担当教員（1・2年生：アカデミック・アドバイザー、3・4年生：ゼミ教員）による履修指導により、全学生について学修指導、生活指導を実施するようになった。今後はこれに加え、履修カルテの作成及び個人への指導をより継続的、効果的に行えるよう改善していく。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、学修に課題のある学生については、個人面談を実施し、履修指導を行った。 履修カルテの作成が進んだことにより、効果的な指導を行うことができた。	24_履修カルテ（静岡福祉大学）
3 学生に対する進路指導の実施状況	小学校教職課程においては、小学校教育実習指導の中や、教員のオフィスアワー等で、小学校教諭一種免許取得希望者のニーズを把握し、正規採用だけでなく、講師等も含めたアドバイスを行った。また、教員採用試験に関する情報を積極的に提供し、また小学校教育実習委員会でも、報告を行った。 幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習指導の中で、実習指導とともに、進路状況の確認及び進路指導を行った。	小学校教職課程においては、キャリア支援課との情報共有が、十分にできていなかった。教員採用試験に関する情報は、教員採用試験対策講座担当者間で随時情報共有をしていたものの、学生の進路指導について共有することは十分ではなかった。 幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習指導の中で、実習指導とともに、進路状況の確認及び進路指導を十分に行うことができた。	40_令和5年度 第3・4・7回_小学校教育実習委員会_議事録 41_2023後期_オフィスアワー相談件数表（小林広昭） 42_2023年度_幼稚園教育実習面談日程	
⑦	関係機関等との連携			
	1 教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	小学校教職課程においては、焼津市とのボランティア協定や、令和6年度からの静岡県教育委員会主催事業への参画の計画等を進めた。 幼稚園教職課程においては、焼津市子ども未来部保育・幼稚園課、藤枝市こども課及び近隣私立幼稚園協会との連携を図った。 大学として、静岡産業大学との単位互換協定に続き、2024年度からの静岡大学教育学部との単位互換協定を結んだ。	小学校教職課程においては、焼津市とのボランティア協定や、令和6年度からの静岡県教育委員会主催事業への参画等、積極的に連携を図ることができた。 幼稚園教職課程においては、静岡県教育委員会との連携はないが、藤枝市教育委員会、藤枝市こども課及び焼津市子ども未来部保育・幼稚園課と連携を図っているところである。他近隣市では、私立幼稚園が多いため、私立幼稚園協会との連携を行っていく必要がある。 他大学との単位互換協定により、学生の授業履修に幅を出すことができるようになった。	43_令和5年度_小学校教育実習委員会議事録（抜粋） 44_焼津市教委資料（ボランティア） 45_2023年度_近隣幼稚園関係者との話し合いと実習の依頼 46_単位互換に関する協定書
	2 教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	小学校教職課程においては、学校体験活動及び教育実習を学生の母校で実施した。学校体験活動については、学生の報告書により実習状況の把握した。教育実習において、15人の実習校への巡回指導により、学校体験活動と併せて、実習の状況把握を行った。また、巡回指導記録票及び実習後の実習校からのアンケート調査も実施した。個別の希望についても実習校と連携して対応した。 幼稚園教職課程においては、幼稚園教育実習指導にて、実習幼稚園からの意見聴取をして、保育実習委員会委員の教員と情報を確認した。個別の希望についても実習園と連携して対応した。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、アンケート調査、意見聴取、巡回指導等を通して、実習校との連携、協力を図ることができた。	47_小学校教育実習巡回記録票（R5） 48_幼稚園教育実習巡回日程（R5） 49_幼稚園教育実習 実習先からの意見
3 学外の多様な人材の活用状況	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、本学の実務教員の経験に基づく授業を複数回実施し、学生の実践力向上、学修効果の向上を図った。 幼稚園教職課程においては、「保育・教職実践演習」「幼稚園教育実習指導」の授業にて、外部からのゲストスピーカー（園長や卒業生）を招聘し、学生の実践力向上を図った。また、保護者にも実習の保護者会にて実習の進め方、内容について説明した。	小学校教職課程、幼稚園教職課程の両課程において、教職専任教員の多様な実務経験を活かした授業を展開することができた。また、外部からのゲストスピーカーを招聘し、理論と実践の往還、学生の実践力の向上を図ることができた。	50_2023年度_保育・教職実践演習スケジュール 51_2023年度_幼稚園教育実習指導_外部講師の講話メモ	